

【参考資料 4】

第 6 回社会保障審議会「疾病、傷害
及び死因分類」専門委員会 資料

WHO-FIC ネットワーク関連会議(諮問会議(Advisory Council),
改訂運営会議(RSG)及び内科部会(TAG)会議)に関する報告

開催場所	スイス連邦 ジュネーブ WHO 本部
参加国	米、仏、伊、独、豪、加、蘭、伯、デンマーク、韓国、タイ、日本
日 程	4月10日(木) 9:00~17:00 WHO-FIC ネットワーク関連会議(内科部会(TAG)会議) 4月11日(金) 9:00~17:00 WHO-FIC ネットワーク関連会議(改訂運営会議(RSG)会議) 4月14日(月) 9:00~17:00 WHO-FIC ネットワーク関連会議(諮問会議(Advisory Council)) 4月15日(火) 9:00~17:00 WHO-FIC ネットワーク関連会議(諮問会議(Advisory Council)) 4月16日(水)9:00~17:00 医療行為の分類(ICHI)に関する会議

■ 4月10日(木)WHO-FIC ネットワーク関連会議(内科部会(TAG)会議)

本会議は、翌日の改訂運営会議(RSG)に備えて、ICD 改訂の具体的な作業の一環として、
疾病のインフォメーションモデルについて議論が行われた。

- WHO 本部より、ICD 改訂の現在の進捗状況について報告があり、現在の5つの TAG に加えて、新たに「母子の健康、周産期も含む(仮)(Maternal & Perinatal)」「眼科(Ophthalmology)」及び「医療情報モデル(Health Information Modeling)」の3つが立ち上げる予定であることが報告された。
- RSG 議長のシュート(米)より、インフォメーションモデルを活用した ICD 改訂のあり方について説明がなされた。
- WHO よりインフォメーションモデル(案)が提示され、いくつかの疾病をモデルに具体的な検討が行われた。日本からは脳梗塞(堺先生)、HCV 感染(菅野先生)、腎臓疾患(飯野先生)、内分泌疾患(島津先生)に関するプレゼンテーションが行われ、当該インフォメーションモデルの妥当性等について議論された。
- WHO から今後のスケジュール等について、 α 版完成の時期を念頭に入れると各 TAG は 2008 年内に立ち上げなければならないと説明された。
- 疾病分類グループ(MbRG)より提出された ICD 改訂に関する意見書について、説明がなされ RSG と MbRG は密接に連携すべき、との合意がなされた。
- 疾病分類グループ(MbRG)から、リスク・ファクター(contextual factors) について ICD-11 では検討されるべき、と提案された(第 21 章)。今後継続的に議論すべきであると確認がされた。

■ 4月11日(金)WHO-FIC ネットワーク関連会議(改訂運営会議(RSG)会議)

○ 各 TAG の進捗状況について報告が行われた。

・ 外因 TAG

- メンバーを選定している。19章、20章について検討している。ICECI の構造を踏襲したいが、多軸であるため ICD と大きく違う。ユーザーから具体的な問題点のフィードバックを得て作業を進める。重傷度コード(AIS、ISS)を含めて複数コードを使用するケースについてテストをしたい。ICECI は LEXWIKI へインプットされた。

・ 稀な疾患 TAG

- NIH と協力体制が決定。メンバーシップの拡大をしたい。Orphanet に登録された疾病を記述する様式について説明。疾病の明確な特徴(症状、病因、治療等)14 の項目及び、疾病を扱う時の特性(プライマリー・ケア、研究等)6 項目がある。この様式を使って、各 TAG の作業が可能となるのか検証してはどうか。LEXWIKI へデータ提供を行った。

・ 精神 TAG

- WGメンバーとして丸田先生が参画。3回の TAG を開催した。本年2月にWG会議が、日本で開催された。WGは現在5つが活動。DSM は同時に改訂を進めており、ICD が協調を図るには、著作権の問題があるので、慎重に進める。

・ 腫瘍 TAG

- 国際対がん連合(UICC)と協力体制を構築。メンバーの選定が行われる。WHO の刊行する腫瘍の一覧(ブルーブック)の見直し作業は改訂に関わってくる可能性が高い。ICD-11 に向けて必要な作業はたくさんあり、人材はそろっているが、TAG、RSG との調整は進んでいない。

・ 内科 TAG

- WHOは、WG のメンバーを選定中である。今のところ7つのWGをつくる予定である。内科は、ICD の中で最も多くの部分を占めており、今後多くの点について他 TAG との調整を必要とするだろう。小児疾患は含まれないが、どうするかは課題。稀な疾患との重複がある。

○ ICD 改訂後の具体的な活用(ユースケース)について、議論が行われた。多目的の用途に耐えうるよう開発されるべきだが、何が優先されるべきか検討する。

■ 4月14日(月)WHO-FIC ネットワーク関連会議(諮問会議(Advisory Council))

- 各委員会とレファレンス・グループより活動報告があった。普及委員会の座長の一人(蘭)が辞意を表明、ターミノロジー・グループの座長の一人に Kim(韓)の就任が決定。
- IHT-SDO(SNO-MED)の役員により ICD-10(version 2)と IHT のマッピング作業に関する WHO 側と IHT-SDO 側との合意形成の進展について報告があった。
- 第一回の諮問会議(Advisory Council(Council))であることより、会議の進め方について議論された。出席者(国)と、各委員会及びレファレンス・グループの投票により意志決定される。Council 内に事務局的な組織である小執行委員会(Small Executive Group(SEG))をつくった。
- 日本が Kim(韓)とともに SEG のメンバーとして推薦を受けた。

■ 4月15日(火)WHO-FIC ネットワーク関連会議(諮問会議(Advisory Council))

- WHO 研究協力センターとしてハンガリー、タイ、韓国、インド、南アフリカ、メキシコが申請中。
- 改訂に使うことを目的として各国が翻訳改変した ICD のモディフィケーションの一部は WHO-FIC の改訂システムの中に読み込まれているが、著作権の問題から予定より大幅に遅れている。
- 次回年次会議で ICF の改正を正式に着手する方針を確認。ICD とは別に各国に専門家の派遣を要請することになる。
- 次回 2008 年・年次会議は、インドで開催。改訂運営会議(RSG)は年次会議から分離して、月一回のペースで電話会議を行う。

■ 4月16日(水)ICHI に関する会議

- 医療行為の分類(ICHI)の作成に取りかかるための打ち合わせ。
- 分類の範囲は伝統医学、看護、プライマリー・ケア等全てカバー。他の分類との整合性を確認。
- 3 つの軸、対象、行為、方法に対応した分類。どの医療従事者がどこで、という情報は含まれない。